

多文化共生国際セミナー

異文化間対人スキル構築

日時：2020年9月28日（月）9:30～12:00

場所：オンライン（ZOOM） 言語：英語（日本語版PPTあり）

参加費無料・参加申込はこちらまで⇒ <https://forms.gle/Jf9uGGav1cwPCjnL8>

申込期限：2020/9/26

問い合わせ hu.diversity.seminar@gmail.com

英語の講義を受けてみよう!



プログラム

- 9:30～ 9:45 ご挨拶および趣旨説明 大池真知子・櫻井里穂
- 9:45～10:45 講義「オンライン環境下における異文化間コミュニケーション能力形成」/質疑応答
ペンシルバニア州立大学 教育政策部長
Gerald LeTendre 氏 ※日本語版PPTあり
- 10:45～11:45 講義「教育における言語の役割」/質疑応答
上智大学グローバル化担当副学長・上智大学総合人間科学部教授
杉村美紀 氏 ※日本語版PPTあり
- 11:45～12:00 質疑応答 ディスカッション

教育における言語の役割

教授言語と言語教育の役割とは何だろうか？多様化する社会では言語に二つの役割があると先行研究では述べられている。一つ目の役割は、政府はしばしば公教育における使用言語として公用語を設定することで国家統一政策を形成してきたということである。二つ目の役割としては、人々は皆、自己の文化的アイデンティティと文化的背景の象徴として、母語を残していこうとするということである。これらの要素に加え、言語は人々の政治的・経済的・社会的な必要性に応じ、選択されてきた。

人は、よりよい学びや仕事、暮らしの機会を得ようとする。特に、現代の移民時代においては、変容する言語の役割は、人々の教育的ニーズに応じるためには、多文化教育のなかのあらたな機能として考えられるべきである。本発表では、マレーシアと日本に住む中国人に対する教育に着目し、言語の3つの役割の比較可能な関係性を明らかにする。

オンライン環境下における異文化間コミュニケーション能力形成

近年、学校や大学はどれも学生の多様性を尊重してきており、学生・教員ともに異文化間コミュニケーションスキルが必須となってきている。長年、ビジネスや国際関係では異文化間コミュニケーションの能力（ICC）は重要視されてきたが、それは教育の分野においても多様な学習者に対応する教員に必要な資質である。

本講義では、異文化間コミュニケーションスキルがどのように形成されるのかについて、基本的な理論をいくつか検証する。外国人留学生との異文化間コミュニケーション対策について、大学レベルの論文を示しながら触れる。そして、異文化間コミュニケーション理論や技術がオンラインの環境でどのように修正されてきたのかを議論する。最後に、オンライン教職教育プログラムのなかでの異文化間コンピテンシーの育成や、オンライン教育ならではの、より平等に教育が万人に行き届く可能性といった近年の研究について論じる。

杉村美紀 上智大学グローバル化担当副学長、上智大学総合人間科学部教授。教育学修士・博士（教育学）。世界比較教育学会理事、日本比較教育学会会長等、多数役職を兼任。近年の研究テーマは人の国際移動と多文化教育、ならびに国際高等教育の意義と課題。編著に『日本で出会う世界一国内で実現する短期集中型国際研修』（2020年、共編著）等。

Gerald LeTendre ペンシルバニア州立大学・教育政策部長（the Harry Lawrence Batschelet II Chair of Educational Administration）、The American Journal of Education の共同編集者。ペンシルバニア州立大学教育政策研究部局長 8年在職。現在、同大学の World Campus 教員職能研修コースを構築・実施。近年の研究テーマは「破壊的技術が教員の職務や専門性にどのように影響をあたえるか」。

主催：ダイバーシティ研究センター 共催：広島大学教育開発国際協力研究センター・広島大学ダイバーシティインクルージョン研究拠点
※この講座は CICE オープンセミナーと「ダイバーシティ概論」の授業の一部を兼ねています。

